

第41回世界獣医師会（WVA）大会（WVAC 東京大会） WVA ワンヘルス東京宣言 2026

人、動物及び環境は、この地球という共通の生態系の中で相互に依存し、しかも不可分の関係にある。人・動物・環境の健康を一体として捉える「ワンヘルス」の理念は、現代社会が直面する複合的課題に対応するための基本原則である。

人獣共通感染症の発生・再発生、薬剤耐性（Antimicrobial Resistance：AMR）の拡大、気候変動及び自然災害に伴う健康危機、並びに食料安全保障の課題は、国境を越えて相互に影響し合っている。これらに対処するためには、医療、獣医療、環境及びそれらの学術研究、さらには行政及び市民社会が連携し、科学的根拠に基づく取組を推進することが不可欠である。

人・動物・環境の健全性の確保は、今日の国・地域を超えた共通する責務である。私たちは、2016年福岡宣言及び2022年アジア・ワンヘルス福岡宣言の精神を継承し、東京において以下の理念を共有するとともに、地域社会との連携を基盤とし、国際社会と調和した対話と協働を通じて、持続可能で平和な未来を次世代へ引き継ぐ責務を共有することを、ここに「ワンヘルス東京宣言 2026」として宣言する。

基本理念

1. 人・動物・環境の健康を不可分のものとして統合的に捉え、地域政策及びその実践を重視して取り組むこととする。
2. 医師、獣医師、学術研究機関、行政機関及び市民社会の分野横断的な協働、並びに国際的な連携を推進する。
3. 人獣共通感染症及び薬剤耐性（AMR）対策において情報共有と国際協力を強化しつつ、責任ある抗菌薬の使用、監視体制の強化及び研究開発を推進する。
4. ワンヘルスの理念を教育に組み込み、次世代を担う人材の育成を図る。
5. 生物多様性の保全及び環境の健全性を重視し、持続可能な社会基盤の構築に貢献する。
6. 公衆衛生、動物衛生及び環境保全分野の緊急的な取組においては、関係機関と連携し、迅速かつ科学的根拠に基づいた対応を行う。

特集：世界獣医師会大会 2026（東京大会）開催報告

～みなさま、ご支援、ご協力ありがとうございました！～

2026年4月21日から24日にかけて、東京国際フォーラムで開催した世界獣医師会大会2026について、その開催概要を報告します。

1 開催の概要

- (1) 日 時：2026年4月21～24日
- (2) 場 所：東京国際フォーラム（千代田区）
- (3) 大会テーマ：ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来
- (4) 大会長：藏内勇夫
- (5) 主催：日本獣医師会
- (6) 共 催：日本学術会議
- (7) 特別協力：公益財団法人 東京観光財団
- (8) 後 援：

農林水産省，環境省，厚生労働省，外務省，内閣府
食品安全委員会，東京都（シンポジウム及び講演に限
る），千代田区，公益社団法人 日本獣医学会，公益社
団法人 日本動物病院協会，一般社団法人 日本愛玩動
物看護師会，一般財団法人 動物看護師統一認定機構

2 会場のレイアウト

東京国際フォーラムは、大小8つのホール、31の会議室、巨大なガラスのアトリウムなどから構成されています。今回はほぼ全館を利用した大規模なイベントでしたので、会場を案内いただくボランティアスタッフにお世話になった方も多かったかと思います。

ホール棟とガラス棟は地下1階コンコース及び4階、5階、6階にある連絡ブリッジでつながっているのですが、担当職員もそこを使いこなせるようになったのは日程の後半になってからでした（図）。

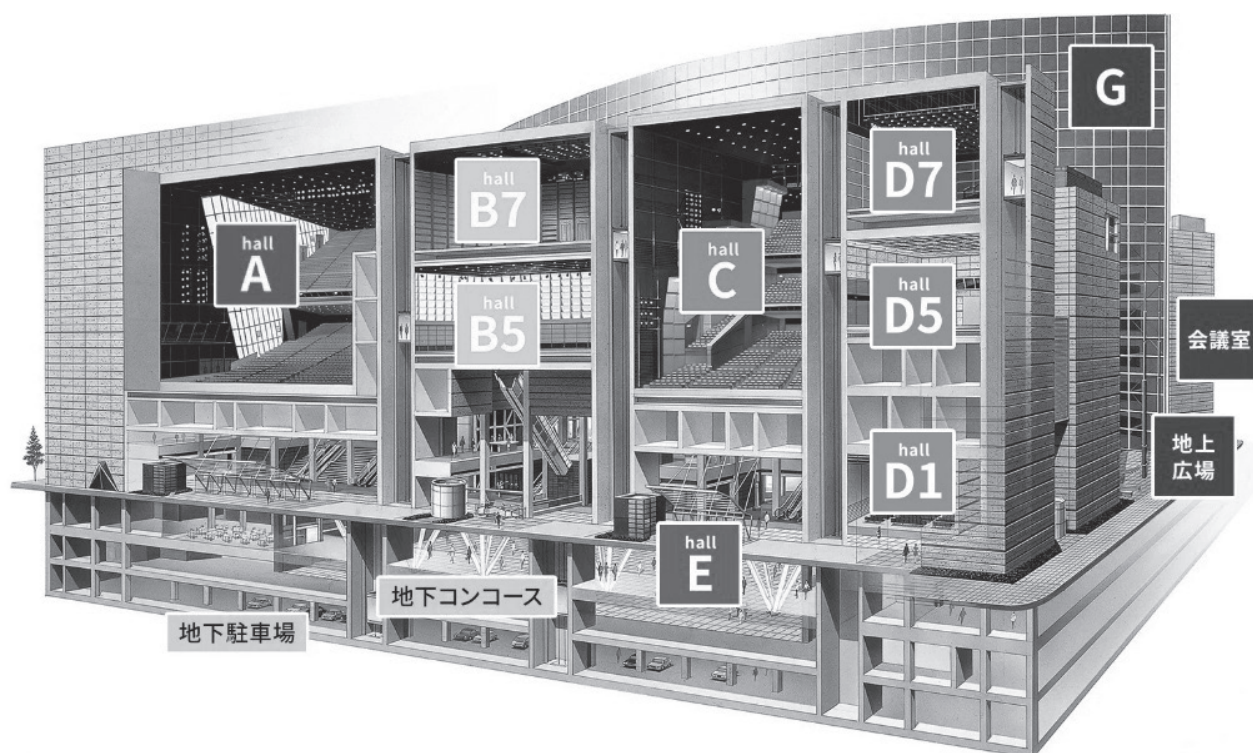


図 <https://www.wvac2026-tokyo.com/venue.html> より引用

3 大会プログラム

4月21日(火)

会場	開会式会場 ホールA	第1会場 ホールC	第2会場 ホールB5	第3会場 ホールB7-1	第4会場 ホールB7-2	第5会場 ホールD5	第6会場 ホールD7	第7会場 G502	
8:00	受付								
9:00									
10:00	開会式								
11:00	基調講演 One Health アプローチによるパンデミック・インフル エンザの理解と対策								
12:00				ランチョンセミナー1 【明治アニマルヘルス 株式会社】					
13:00				プログラム3-1 【Vector borne diseases:感染症生態 学の視点から】	プログラム4-1 【小動物のウェルビー イング:動物福祉、行動生 態、倫理の視点から】	プログラム5-1 WVA総会	プログラム6-1 【最新牛輸液療法】	プログラム7-1 【獣医学教育改革への 挑戦 米国における獣 医臨床教育】	
14:00	JVMA企画① 市民公開講座								
15:00	【One Health × Sports”ワンヘルス”が”スポーツ”を、 ”スポーツ”で”ワンヘルス”を】								
16:00									
17:00		JVMA企画② 【伴侶動物医療の未 来】					プログラム6-1 【一般口演】		
18:00									
19:00									
20:00									

4月22日(水)

会場	開会式会場 ホールA	第1会場 ホールC	第2会場 ホールB5	第3会場 ホールB7-1	第4会場 ホールB7-2	第5会場 ホールD5	第6会場 ホールD7	第7会場 G502	
8:00	受付								
9:00									
10:00			プログラム2-2 【先端臨床獣医学】獣 医領域における個別化 診療	プログラム3-2 【豚の伝播性感染症の 現状とその制御戦略】	プログラム4-2 【病理・感染症領域にお けるAIデータサイエン スの活用】	プログラム5-2 WVA ワンヘルスサミット	プログラム6-2 【牛呼吸器疾患】 (シンポジウム)	プログラム7-2 【獣医学教育改革への 挑戦 スキルラボを 活用した教育の意義と 効果】	
11:00									
12:00		年次大会表彰式	ランチョンセミナー2 【日本ヒルズ・コルゲ ート株式会社】	ランチョンセミナー3 【ペーリンガーインゲ ルハイム アニマルヘルスジャパ ン】			ランチョンセミナー4 【東亜薬品工業株式会 社】		
13:00		JVMA企画④ 【愛玩動物看護】	プログラム2-3(1) 【先端臨床獣医学】心 臓血管領域の革新	プログラム3-3 【反芻家畜の越境性感 染症の現状とその制御 戦略】	プログラム4-3(2) 【飼育衛生管理におけ るAIデータサイエン スの活用】	プログラム5-3 WVA ワンヘルスサミット	プログラム6-3(1) 【子牛の軟部外科の最 前線】	プログラム7-3 【獣医学教育の国際化 アジアの獣医学教育を 世界水準に向上させる 取り組み】	
14:00									
15:00									
16:00			プログラム2-3(2) 【先端臨床獣医学】口 ボット手術				プログラム6-3(2) 【乳牛の健康を守る新 しいパラダイム】		
17:00									
18:00									
19:00									

第8会場 G402	第9会場 G409	第10会場 G602	第11会場 G701	第12会場 ホールD1	ポスター発表会場 ホールCホワイエ	展示会場 ホールE		
						ホール内	スポンサーセッション会場1 (獣医師限定エリア)	スポンサーセッション会場2 (一般消費者エリア)
付								
						オープニング		
プログラム8-1 変わりゆく世界におけるOnehealth	プログラム9-1(1) 年次大会 【小動物】 地区学会会長賞受賞講演 13:00～17:00(予定)	プログラム10-1(1) 年次大会教育講演 【公衆衛生】 忘れてないで！狂犬病 13:00～15:00(予定)	プログラム11-1(1) 年次大会 【産業動物】 地区学会会長賞受賞講演 13:00～17:00(予定)	JVMA企画③ 【アジア獣医師研修プログラムの軌跡と未来への展望:ワンヘルスの実現に向けて】		展示ブース		
		プログラム10-1(2) 年次大会 【公衆衛生】 地区学会会長賞受賞講演 15:00～17:00(予定)						
	プログラム9-1(2) 獣医学術奨励賞 受賞者記念講演 17:00～17:30(予定)	プログラム10-1(3) 獣医学術奨励賞 受賞者記念講演 17:00～17:30(予定)	プログラム11-1(2) 獣医学術奨励賞 受賞者記念講演 17:00～17:30(予定)					
							ウェルカム レセプション	

[illegible]

4月23日(木)

会場	開会式会場 ホールA	第1会場 ホールC	第2会場 ホールB5	第3会場 ホールB7-1	第4会場 ホールB7-2	第5会場 ホールD5	第6会場 ホールD7	第7会場 G502
8:00	受付							
9:00		JVMA企画⑦-1 市民公開講座 【ペットと飼主の健康 :Thanks Buddy!】	プログラム2-4 【先進的再生医療の現 状と臨床応用に向けた 課題】	プログラム3-4 【豚熱とアフリカ豚熱に 対するワクチン戦略の 現状と未来】	プログラム4-4 【新興・再興脅威として のコウモリ媒介感染 症】	プログラム5-4 WVA アニマルウェルフェア セミナー	プログラム6-4 【法獣医学の発展】	
10:00				プログラム3-4 【一般口演】				
11:00								
12:00				ランチョンセミナー8 【株式会社ファスマッ ク】	ランチョンセミナー9 【株式会社エム・ティ ー・スリー】		ランチョンセミナー10 【ミヤリサン製薬株式会 社】	
13:00		プログラム1-5 【伴侶動物臨床:動物 の健康と福祉シンポジ ウム】	プログラム2-5 【野生動物の疾病生態 学】	準備		プログラム5-5(1) WVA 獣医学教育セミナー	プログラム6-5(1) 【ワンヘルスの視点から みた薬剤耐性】(シンポ ジウム)	プログラム7-4 【感染症の脅威と制御】
14:00						プログラム5-5(2) WVA 医薬品適正使用に関す るワークショップ		
15:00								
16:00				オフィシャルディナー 18:00開場/18:30開会/20:30終了			プログラム6-5(2) 【水産動物における AMR:ワンウォーター の視点から】	
17:00								
18:00								
19:00								
20:00								
21:00								

4月24日(金)

会場	開会式会場 ホールA	第1会場 ホールC	第2会場 ホールB5	第3会場 ホールB7-1	第4会場 ホールB7-2	第5会場 ホールD5	第6会場 ホールD7	第7会場 G502
8:00	受付							
9:00		準備	市民公開講座 日本医師会・日本獣医 師会・厚生労働省による 連携シンポジウム ワンヘルスのいろいろな カタチ		プログラム4-6 【哺乳類に対する鳥イ ンフルエンザの新たな 脅威】		プログラム6-6 【ワンヘルスによる薬剤 耐性への取組】	プログラム7-6 【シエルター獣医療】
10:00								
11:00								
12:00		開会式						

第8会場 G402	第9会場 G409	第10会場 G602	第11会場 G701	第12会場 ホールD1	ポスター発表会場 ホールCホワイエ	展示会場 ホールE				
						ホール内	スポンサーセッション会場1 (獣医師限定エリア)	スポンサーセッション会場2 (一般消費者エリア)		
寸										
JVMA企画⑧-1 市民公開講座 【災害獣医療セッション】 大規模災害への対応事例報告から考えるこれからの災害対策	プログラム9-4 年次大会シンポジウム 【小動物】 SFTS—増加する動物病院スタッフの感染・創い主の感染を防ぐには— 9:00～11:50	プログラム10-4 年次大会シンポジウム 【公衆衛生】 ヒトに密接に関連する野生鳥獣の現状と課題 9:00～12:00	プログラム11-4 年次大会シンポジウム 【産業動物】 肉牛群における呼吸器疾患対策 9:00～12:00	JVMA企画⑨ 【WOAH Session: From Policy to Practice: Driving Gender Equality, Disability and Social Inclusion (GEDSI) for a Stronger Veterinary Workforce in Asia and Beyond】	ポスター発表 12:00～13:00：質疑応答時間	展示ブース				
								サイドセッション4 【ソエティス・ジャパン株式会社】		
	ランチョンセミナー11 【共立製薬株式会社】		ランチョンセミナー12 【王子ファーマ株式会社】	ランチョンセミナー13 【株式会社アイビー】						
JVMA企画⑧-2 市民公開講座 【災害獣医療セッション】 大規模災害への対応事例報告から考えるこれからの災害対策	プログラム9-5 (1) 年次大会シンポジウム 【小動物】 レプトスピラ症—我が国で増加しているレプトスピラ症の今後を考える 13:00～15:00	プログラム10-5 年次大会一般講演・研究報告 【公衆衛生】	プログラム11-5 年次大会一般講演・研究報告【産業動物】						サイドセッション5 【ソエティス・ジャパン株式会社】	
									サイドセッション6 【ソエティス・ジャパン株式会社】	サイドセッション7 【JICA】
JVMA企画⑧-3 市民公開講座 【災害獣医療セッション】 大規模災害への対応事例報告から考えるこれからの災害対策	プログラム9-5 (2) 年次大会シンポジウム 【小動物】 身近で危険な人獣共通感染症 —感染症から身を守るには— 15:00～17:00			JVMA企画⑦-2 市民公開講座 【ペットと飼主の健康 :Thanks Buddy!】						

第8会場 G402	第9会場 G409	第10会場 G602	第11会場 G701	第12会場 ホールD1	ポスター発表会場 ホールCホワイエ	展示会場 ホールE		
						ホール内	スポンサーセッション会場1 (獣医師限定エリア)	スポンサーセッション会場2 (一般消費者エリア)
寸								
JVMA企画⑩ 【Vet Ed Asia②】	プログラム9-6 年次大会シンポジウム 【小動物】 診断から手術、そして視 覚の回復へ—獣医眼科 の進化形— 9:00～12:00			JVMA企画⑪ 【東アジアサミット】		展示ブース		
								サイドセッション6 【オリエンタルバイオ株 式会社】

4 開 会 式

開会式の会場となった東京国際フォーラムのホール A は 3,000 人ほどの収容人数を誇る日本屈指のホールですが、世界各国から集まった獣医師などの皆様でその席のほとんどが埋まりました。また、壇上には天皇皇后両陛下、観客席の中央には愛子内親王殿下が着席され、厳かな雰囲気の中、開会式が催されることとなりました。実際の挨拶順に沿って、開会式でのご挨拶を紹介します。

藏内勇夫会長（WVAC2026 大会長）（写真 1）

Your Majesties the Emperor and Empress, Distinguished guests and Participants,

It is my great honor and pleasure to open the 41st World Veterinary Association Congress today in the gracious presence of Their Majesties the Emperor and Empress.

I would like to extend my warmest welcome to all veterinarians, researchers, and participants from around the world, and to express my sincere appreciation to former Prime Minister of Japan, Taro Aso, Dr. Emmanuelle Souberyan, the Director General of the World Organization for Animal Health, as well as other distinguished guests, for honoring us with their presence.

It has been 31 years since this congress was last held in Japan, in Yokohama in 1995.

The 1995 congress was the first ever held in Asia and marked a significant milestone in its history. It took place shortly after the Great Hanshin Awaji Earthquake, during a time of severe national hardship, yet veterinarians and veterinary professionals across Japan united in solidarity and successfully hosted the congress.

That spirit of resilience and unity continues to sustain and inspire us today.

Our world has changed greatly.

We now face serious global challenges, including the spread of infectious diseases, worsening environmental problems, and the loss of biodiversity.

These issues are making us rethink the relationship between human society and the natural environment more than ever before.

In addition, conflicts continue in Ukraine and the Middle East.

Lives and the health of both humans and animals are being lost, and our planet is facing a severe environmental crisis.

To overcome these challenges and pass on a safe and beautiful Earth to future generations, it is essential to embrace the concept of One Health and to take action to transform our societies.

With this awareness, the theme of this congress is “One Health for a Better Tomorrow: Veterinary Medicine Holds the Key.”

Over the course of the congress, we expect approximately 6,000 experts in animal health, public health, and environmental sciences from around 70 countries and regions to participate.

They will engage in active discussions on global issues related to veterinary medicine.

Veterinary medicine is not limited to the health of animals.

It also plays a vital role in public health, food production, and environmental protection.

I am confident that this congress will make a significant contribution to building a safer and more secure world through the sharing of knowledge and international cooperation.

At the same time, we must remember that One Health requires cooperation across countries and disciplines, and all members of society.

We also have a responsibility to pass on this irreplaceable global environment to the next generation. For this reason, it is important that this congress provides an opportunity for the general public — especially young people — to learn about One Health and to think about their own future.

As part of this effort, we will hold public lectures open to citizens.

We hope that many people will join us in these efforts.

In closing, I sincerely hope that this congress will serve as a place for veterinarians and researchers to exchange knowledge and deepen their expertise, while also building new connections with the public, especially the younger generation, and helping to spread the One Health concept throughout society.

With these thoughts, I would like to declare the opening of this congress.

本日ここに、天皇・皇后陛下のご臨席を仰ぎ、「第 41 回 世界獣医師会大会」を開催できますことは、この上ない栄誉と喜びであります。

また、世界各国からお越しくださいました獣医師、研究者の皆様、並びに関係団体・企業の皆様に、心から歓

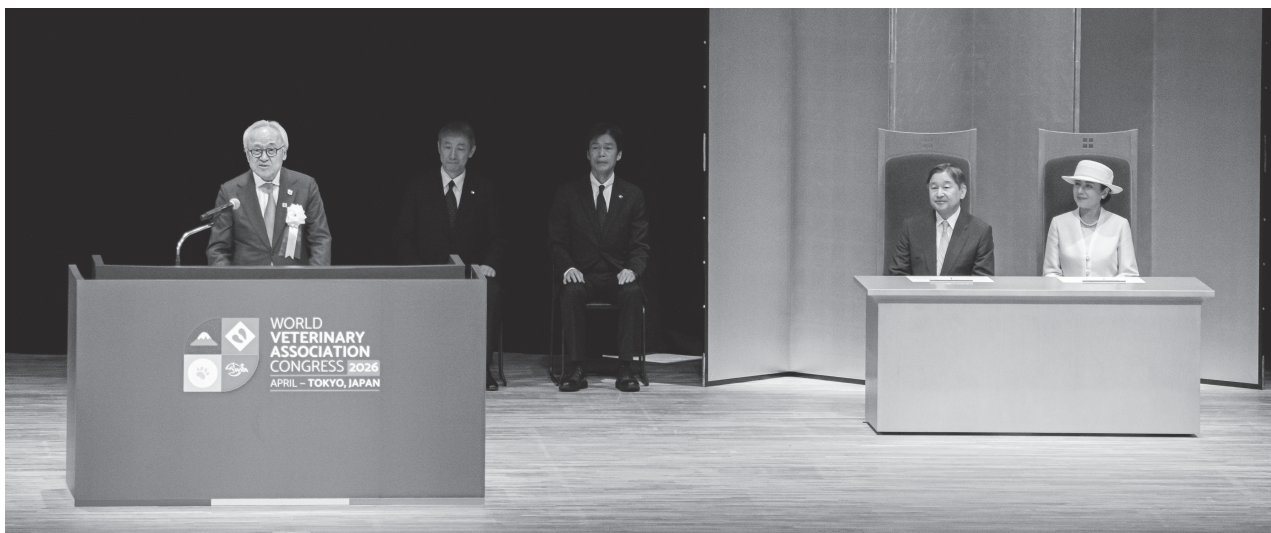


写真1 あいさつする藏内勇夫会長（WVAC2026 大会長）

迎の意を表しますとともにご臨席を賜りました麻生太郎元内閣総理大臣、エマニュエル・スベラン WOAH 事務局長をはじめとするご来賓の皆様、改めて深く感謝申し上げます。

世界獣医師会大会が日本で開催されるのは、1995年の横浜大会以来、実に31年ぶりとなります。同大会は、アジア初の開催として、重要な歴史的意義を有するものでありました。

当時は、阪神・淡路大震災の直後という、国全体が大きな困難に直面している時期でもありましたが、日本全国の獣医師並びに獣医療関係者が一致団結し、大会を成功へと導きました。

その際に示されたレジリエンスと連帯の精神は、今日に至るまで、私たちを力強く支え続けています。

そして、世界は大きく変化し、感染症の拡大、環境問題の深刻化、生物多様性の喪失など、人間社会と自然環境との関係を根本から問い直す課題が、かつてないほど顕在化しています。

加えて、ウクライナや中東では戦火が続いています。人と動物の命と健康は失われ続け、地球環境もまた深刻な危機に直面しています。

この現状を打破し、次の世代に美しく住みよい地球をつないでいくためには、ワンヘルスの理念と、その実践による社会の変革が不可欠です。

こうした問題意識のもと、今回の大会は、「ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来」をテーマとして開催いたします。

約70の国・地域からおよそ6,000人の動物医療、公衆衛生、環境分野の専門家が一堂に会し、獣医学を取り巻く地球規模の課題について活発な議論が交わされます。

獣医学は、動物の健康管理にとどまらず、公衆衛生、食料生産、環境保全といった幅広い分野に深く関わって

います。

本大会が、国際的な知見の共有と連携を通じて、安全で安心な世界の実現に大きく貢献することを確認しております。

同時に、ワンヘルスの実現には、国境や分野を越え、社会のあらゆる人々の協力が必要であることを、私たちは忘れてはなりません。

また、私たちは、このかけがえのない地球環境を、次の世代へと確かに引き継いでいく責任を担っています。だからこそ、本大会が、一般の方々、特に若い世代の皆様にとって、ワンヘルスの理念に触れ、自らの未来を考える契機となることが重要であると考えております。

その一環として、本大会では、一般市民を対象とした公開講座も開催いたします。多くの皆様にご参加いただければ幸いです。

本大会が、獣医師、研究者同士の情報交換や研鑽の場となるとともに、一般の方々、特に若い世代の皆様との新たなつながりを生み出し、ワンヘルスの理念が社会全体へと広がっていくことを心から祈念申し上げ、開会の挨拶といたします。

光石 衛日本学術会議会長（共同主催者）（写真2）

天皇皇后両陛下、ご来賓並びにご出席の皆さま、

本日ここに、天皇皇后陛下のご臨席の下、第41回世界獣医師会大会が開催されるに当たり、共同主催者としてご挨拶する機会を得まして、誠に光栄です。

今回の会議の開催に大いに貢献された大会会長の藏内先生をはじめ、組織委員会の皆さまにこの場を借りてお礼申し上げます。

日本学術会議は、人文・社会科学、生命科学、理学・工学のすべての領域にわたるわが国の科学者コミュニ



写真2 光石 衛日本学術会議会長（共同主催者）

ティを代表する機関です。

1949年の創立以来、日本学術会議は、わが国における国際会議の開催や、各国で開催される国際会議への代表者派遣等を通じ、世界の学術研究団体との連携を深めてきました。

今回の学術会議を公益社団法人 日本獣医師会と共同主催する運びとなり、さまざまな国と地域から参加者を迎えられたことは、私たちにとって大変嬉しいことです。

本会議においては、数多くの研究成果が報告されるとともに、国や地域の垣根を超えて参加者の皆さまの間で、活発な議論が行われることと思います。また、本会議開催中に開催される市民公開講座を通じ、最先端の研究成果が広く社会に還元されることもまた、大変意義のあることだと考えます。

共同主催者として、本会議における成果が、獣医学の今後の発展に大きく資するものとなることを期待しています。

終わりに、本会議が大きな成果を収めますことを祈念して、私の歓迎のご挨拶とさせていただきます。

ジョン・デヨン世界獣医師会会長（写真3）

Your Majesties the Emperor and Empress,
Distinguished guests and Participants,

Good morning,
Welcome to the World Veterinary Association Congress 2026 hosted by the Japan Veterinary Medical Association and the Science Council of Japan. A great deal of work has gone into planning for this gathering, and we are delighted to be here!

I would like to start by thanking the JVMA and their president, our President Elect, Dr. Isao Kurauchi, for their hard work in making this Congress possible located here in this lovely architectural gem. I

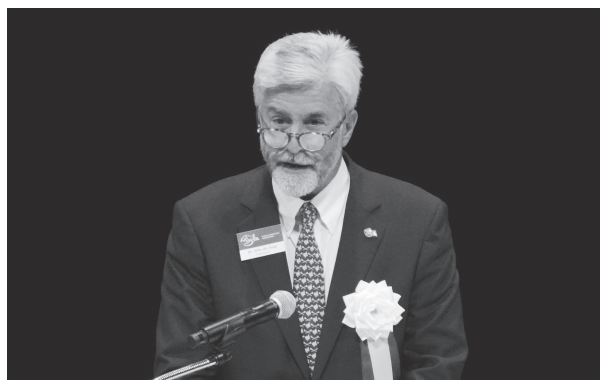


写真3 ジョン・デヨン世界獣医師会会長

thank all those involved.

We are especially honored today by the presence of Their Majesties the Emperor and Empress! Their being here acknowledges how important veterinary medicine is to, not only Japan, but to the entire world! On behalf of the World Veterinary Association, thank you! Arigatou gozaimasu.

Additionally, I would like to thank our distinguished guests joining us here today!, Vice Minister Suzuki Hayato, Minister Suzuki Norikazu, and Governor Koike Yuriko. Their presence here underscores the critical role that veterinary medicine holds in society.

A lot is planned during the next four days in the way of excellent educational opportunities and the JVMA has put together an outstanding program. WVA adds programs through our four working groups. We have seminars planned on veterinary education, medicine stewardship, and animal welfare. One of our highlights is also our One Health Summit which will address zoonotic and emerging diseases, antimicrobial resistance, and global environmental challenges.

I would like to recognize and thank Dr. Emmanuelle Soubeyran, Director General of WOA, who is joining us for this and our Congress.

As we look to the future of our profession, it is essential that Asia continues strengthening the accreditation of veterinarians, linked closely to structured professional development and lifelong learning, such as provided here at WVAC 2026.

I must acknowledge and thank our entire Council for their service during this last two-year term, as well as the additional volunteers that serve the WVA. A special thanks must be given to our incredible dedicated secretariat.

I would also like to recognize Dr. Rafael Laguens for his many years of service as he ends his term as immediate past president.

Again, please take the opportunity to avail yourselves to all that we have planned this week. I am

confident that you will find superb education, extraordinary hospitality, camaraderie, and collegiality. Enjoy the culture, history and natural beauty of all that Tokyo and Japan have to offer. Douzo tanoshinde kudasai!

天皇陛下のおことば



Distinguished Guests,

It gives me great pleasure to have this opportunity to join you today, as the 41st World Veterinary Association Congress is convened here in Tokyo, bringing together veterinarians and experts of various fields from many countries and regions around the world. I am also delighted that, since the World Veterinary Congress was held in Japan in 1995 for the first time in Asia, it is now being held here again after 31 years.

In our society, which is supported in many ways by the presence of animals, veterinarians are facing the lives of animals every day and have dedicated themselves as professionals to protect their health and welfare. In addition, extending beyond the clinical care of animals, veterinarians have long played vital roles across a wide range of fields through their advanced scientific and professional expertise and its practical application. I would like to express my deep respect for the dedication and contributions that veterinarians have made to society.

My family has shared our lives with various animals, including three rescued dogs and four rescued cats that we have cared for. We have received much joy and comfort from them, and each of these lives has always been something

irreplaceable to us. In protecting the health and well-being of these animals, we are deeply grateful to veterinarians and to the staff of the animal hospital, who have constantly provided devoted care for them. Through this, we have a deep feeling of appreciation for the work of veterinarians who strive to protect the health and save the lives of animals.

In recent years, the concept of “One Health,” which views human health, animal health, and the soundness of the environment as an integrated whole, has been attracting increasing attention both in Japan and internationally. It has come to my understanding that under this concept, veterinarians are expected more to address zoonotic diseases, implement measures for the prevention and control of infectious diseases in livestock, ensure food safety, promote public health through the prudent use of antimicrobial agents, and undertake a wide range of other responsibilities.

These include the monitoring of wildlife health and the rescue and care of animals in times of disaster. These practices of One Health, carried out in cooperation with professionals in various fields, including medicine and environmental science, contribute to reducing risks to society as a whole, and their significance is growing ever greater beyond the boundaries of nations and academic disciplines.

In conclusion, I sincerely hope that this Congress will serve as a valuable opportunity for veterinarians and experts of different fields from around the world to share knowledge, deepen cooperation, and open new paths toward the future. I also trust that it will contribute to the realization of a society in which humans and animals can live together in harmony, and to a better future for the world.

Thank you very much.

ご列席の皆様

第41回世界獣医師会大会の開会式に、世界の多くの国と地域の獣医師を始め、幅広い分野の専門家の皆さんと共に出席できることをうれしく思います。そして、1995年にアジアで初めてとなる世界獣医師会大会が日本で開催されて以来、今回、31年ぶりに再び日本で開催されることを喜ばしく思います。

多くの動物の存在に支えられている私たちの社会において、獣医師の方々は、日々動物の命と向き合い、その健康と福祉を守る専門職として尽力してこられました。また、動物の診療のみならず、高度な科学的、専門的知識とその実践により、幅広い分野で重要な役割を果たされ、社会に貢献されていることに深く敬意を表します。

私たち家族も、これまで3頭の保護犬や4頭の保護猫を始め、さまざまな動物たちと生活を共にし、多くの喜びや癒やしを享受してきました。その一つ一つの命は、私たち家族にとって常にかげがえのない存在であり、この動物たちの健康や幸せを守るうえで、獣医師の先生方や動物病院のスタッフの皆さんには日頃から大変お世話になってきています。そ

して、その中で、動物たちの健康を守り、命を救う獣医師の仕事に深く感銘を受けています。

近年、人の健康、動物の健康、そして環境の健全性を一体として捉える「ワンヘルス」の理念が、国内外で一層注目されるようになってきました。この理念の下、人と動物の共通感染症への対応を始め、家畜伝染病の防疫、食の安全の確保、抗菌薬の適正使用などの公衆衛生の向上、更には野生動物の健康監視や、災害時の動物救護活動などに果たす獣医師の方々の役割は、より一層大切になってきていると思います。また、こうしたワンヘルスの実践は、医学や環境を始めとするさまざまな分野における専門家との連携の下、社会全体のリスクを軽減する力となり、その役割は、国家や学問分野の枠組みを超え、ますます重要なものになってくるものと思われます。

今回の大会が、世界の獣医師やさまざまな分野の専門家の皆さんが、それぞれの知見を共有し、協力を深め、未来に向けた新たな道を切り開く貴重な機会となることを願うとともに、人と動物がよりよく共生できる社会の実現に繋がることを期待し、私の挨拶といたします。

ありがとうございました。

鈴木憲和農林水産大臣（写真4）

農林水産大臣の鈴木憲和です。第41回世界獣医師会大会が31年ぶりに日本で開催されるにあたり、このような機会をいただき光栄です。

まず、本日ここに天皇皇后両陛下ご臨席の下、本大会が開催されますことを心からお慶び申し上げます。

また、世界獣医師会のジョン・デ・ヨン会長、日本獣医師会の藏内勇夫会長、日本学術会議の光石 衛会長、WOAHのスペラン事務局長や世界各国からご列席の皆様方におかれましては、食料安全保障などへの貢献にご尽力されていますこと、深く敬意を表する次第であります。

獣医師はさまざまな分野で活躍しており、特に高病原性鳥インフルエンザやアフリカ豚熱などの重大な伝染病への対応は世界的課題です。

かつて、世界中の家畜に多くの被害をもたらした牛疫は、世界各国の長期的な対策とわが国の獣医師たちが開発したワクチンにより2011年に撲滅されました。私はわが国の獣医師によって開発されたワクチンがこの歴史的な成功に寄与したことを誇りに思います。

本大会のテーマである「ワンヘルス」は、人と動物のつながりや連携に着目した理念です。本大会に出席して



写真4 鈴木憲和農林水産大臣

いる「動植物検疫探知犬」も、とっても可愛い顔をしていますが、とっても厳しい顔をした「人」と連携しながら、水際対策に大活躍しています。そして、「ワンヘルス」の理念を推進するには、動物や人の健康だけでなくその周りの環境に関わる獣医師が中心的な役割を果たすことが期待されています。世界獣医師会、日本獣医師会のリーダーシップの下、本大会が世界の獣医師の結束を一層深める契機となることを願っております。

本大会の盛況、主催者である貴会の益々の発展、そして、世界各国からご列席されている皆さまのご健勝と今

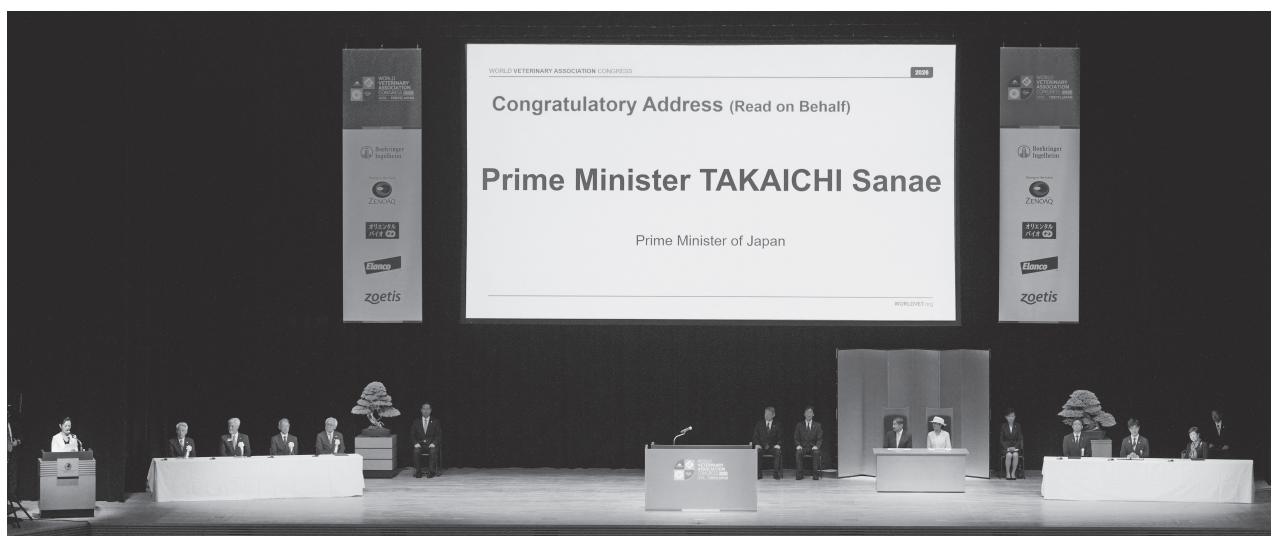


写真5 高市早苗総理大臣（司会代読）

後のご活躍を祈念いたしまして、私からの祝辞とさせていただきます。

最後になりますが、皆さまには、日本滞在を楽しんでいただき、来年、2027年に横浜で開催される「Green×EXPO2027」で、皆さまと再会できることを楽しみにお待ちしております。

高市早苗総理大臣（写真5）

Today, in the gracious presence of Their Majesties the Emperor and Empress, I would like to extend my sincere congratulations on the opening of the 41st World Veterinary Association Congress, held in Japan for the first time in 31 years under the joint auspices of the Japan Veterinary Medical Association and the Science Council of Japan.

The World Veterinary Association, as an international organization uniting veterinarians and related bodies worldwide, has made significant contributions to building global networks to protect animals, people, and society. The Japan Veterinary Medical Association has likewise contributed to improving animal health and welfare and to advancing veterinary medicine in Asia and beyond through international collaboration. I express my deep appreciation for the longstanding efforts of both organizations.

I also commend the Science Council of Japan for advancing science and promoting its application across government, industry, and everyday life, and for contributing to the advancement of scholarship, including veterinary science, through collaboration with the global academic community.

Veterinarians play essential roles in areas such as animal health, food safety and security, and the prevention and control of zoonotic diseases. From the perspective of One Health, which recognizes the close interconnection among humans, animals, and the environment, their role is of great importance.

The Takaichi Administration is committed to addressing zoonotic disease threats through a cross-sectoral One Health approach, promoting cooperation among the human, animal, and environmental health sectors to protect the lives and health of the people and ensure food security.

It is my hope that this Congress, convened here in Tokyo and bringing together veterinarians and other professionals from around the world, will further strengthen collaboration through discussions under the theme “The Future of Veterinary Medicine Shaped by One Health.”

In closing, I sincerely wish all participants good health and continued success.

本日、天皇皇后両陛下のご臨席の下、第41回世界獣医師会大会が、日本獣医師会及び日本学術会議の主催により、31年ぶりに日本で開催されますことに、謹んでお祝い申し上げます。

世界獣医師会におかれましては、世界中の獣医師や獣医療に関わる団体が加盟する国際的な組織として、動物・人・社会を守るため、国際的なネットワークの構築に大きく貢献しておられます。

日本獣医師会におかれましても、動物の健康と福祉の向上を目指すとともに、各国の獣医師会との交流を通じて、獣医療の発展をアジア地域ひいては世界レベルで

ん引しておられます。

こうした両会の長年にわたるご尽力は誠に大なるものと存じます。

また、日本学術会議におかれましては、科学の向上発達を図り、行政・産業及び国民生活に科学を反映浸透させつつ、世界の学界と提携して、獣医学も含めた学術の進歩に寄与しておられることに、改めて敬意を表する次第です。

さて、獣医師の皆さまは、日頃より、動物の医療や衛生をはじめ、食品の安全確保や食料安全保障、人獣共通感染症対策など多岐にわたって活躍され、動物と人の健康、そしてそれを取りまく環境が相互に深く関わり合う「ワンヘルス」の観点からも、きわめて重要な役割を果たしておられると考えております。

高市内閣としても、人獣共通感染症の脅威に対応するため、こうした「ワンヘルス」の考え方にに基づき、人、動物、環境といった分野横断的な対応を関係機関が連携して推進することにより、国民の皆さまのいのちと健康を守るとともに、食料安全保障の確保を図ることとしています。

今般、ここ東京において、世界各国から獣医療に携わる関係者の皆さまが一堂に会し、「ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来」をテーマとするご議論を通じて、一層の連携が深められることを期待しております。

結びに、皆さまのご健勝とますますのご活躍を心より祈念申し上げます。

小野田紀美内閣府特命担当大臣（写真6）

（本日は、小野田紀美内閣府特命担当大臣が都合により開会式に出席することができなくなったため、私が大臣の祝辞を代読させていただきます）

天皇皇后両陛下、ご来賓並びにご出席の皆さま、

本日、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、第41回世界獣医師会大会が開催されるに当たり、日本学術会議を担



写真6 小野田紀美内閣府特命担当大臣
（代読 鈴木隼人副大臣）

当する大臣として、一言お祝いを申し上げます。

獣医学分野の学術大会として世界で最も歴史と権威のある本会議が、31年ぶりに日本、ここ東京で開催されることを非常に嬉しく思います。

本会議の開催にご尽力いただいた国内外の関係者の皆さまに、心から感謝申し上げます。

獣医学は動物の健康のみならず、公衆衛生の向上にも寄与する、われわれの生活を支える学問分野と承知しております。

人の感染症のおよそ60%が動物に由来するものであり、また、新型コロナウイルスのような新しい感染症に限れば、その割合は実に75%にものぼるとお聞きしています。地球の温暖化などわれわれを取り巻く環境が大きく変化する中で、獣医学に関わる皆さまが果たす役割はますます大きくなっていくと考えます。

今大会は「ワンヘルス」をテーマに、獣医学を中心としつつ、人の健康や環境の健全性に関わる幅広い分野の専門家の方々が参加されると伺っております。

本会議が、分野を超えた知見の共有と連携を深め、学術の発展につながる有意義な機会となりますことを期待しております。

最後になりますが、本会議が所期の目的を達成し、多いものとなりますことを期待いたしますとともに、関係の皆さま方の一層のご活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

ありがとうございました。

小池百合子東京都知事（写真7）

東京都知事の小池百合子です。

天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、第41回世界獣医師会大会がここ東京にて開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

また、世界獣医師会のジョン・デヨン会長、藏内勇夫次期会長、日本学術会議の三石会長をはじめ、獣医療や



写真7 小池百合子東京都知事



写真8 基調講演する喜田 宏北海道大学名誉教授



写真9 基調講演をご聴講される天皇御一家



写真10 「ワンヘルス×スポーツ」で講演する(左から)高木那菜さん, 半井重幸さん, 渡辺守成世界体操協会会長, 柴内晶子赤坂動物病院院長

学術の発展に尽力されてきた皆様に深く敬意を表します。

次なる感染症危機への備えの観点からも、人・動物・環境の健康が相互に関わるワンヘルスの理念はますます重要になっています。

東京都は、獣医師をはじめ各分野の専門家と連携しながら、動物由来感染症に関する発生動向の監視や予防をはじめ、総合的な取組を進めてきました。

「Tokyo, One Health in Action」をキーワードに、医療、獣医療、公衆衛生、環境などさまざまな分野の関係者とともに、ワンヘルスの理念の発信・啓発を力強く進めてまいります。

本大会にご参加の皆様が、伝統と最先端の文化が共存する東京の魅力に触れながら、豊富な知見を踏まえた闊達な議論を交わされることを心より期待いたします。

大会の成功が、獣医療の発展や共生社会の実現に繋がれることを願っております。

5 基 調 講 演

基調講演は北海道大学の喜田 宏先生が「One Healthアプローチによるパンデミック・インフルエンザの理解と対策」と題し、インフルエンザの流行の背景やワクチン開発を含むパンデミック対策について講演されました。(写真8)

この基調講演の際には、天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下も観客席からのご聴講をいただきました。(写真9)

6 市民公開講座

今回の大会では市民公開講座が充実していたこともひとつの特徴となりました。初日の基調講演後はOne Health×Sportsとして「ワンヘルスがスポーツを、スポーツでワンヘルスを」というタイトルで、オリンピックの金メダリストである高木那菜さん、ブレイキンのシゲキックスこと半井重幸さん、世界体操協会会長の渡辺守成さん、そして赤坂動物病院の柴内晶子先生らにアスリートの視点などからワンヘルスの重要性を議論いただきました。(写真10)

また、3日目の4月23日には、「ペットと飼い主の健康 Thanks Buddy!」と題して、ペットを飼うことが飼い主の健康にもたらすよい影響や、ペットと共生する社会の将来的な展望等の講演、日本獣医師会ステイトメントのお披露目のほか、介助犬などのデモンストレーションなどが行われました。さらに、「動物との暮らし」の価値や魅力を発信し、その普及に大きく貢献した人物とパディを表彰するBest Buddy Award 2026では女優の前田敦子さんが表彰されるなど、大きな盛り上がりを見せました。(写真11, 12)



写真11 Thanks Buddy! 活動を紹介する上野理事（右）と森理事（左）



写真12 ベストバディアワード授賞式（左から小林元朗獣医師、前田敦子さん、上野弘道東京都獣医師会長）



写真13 「ワンヘルスのいろいろなカタチ」で講演する堀内基広北海道大学教授



写真14 ポスターセッションの様子

最終日の4月24日には「ワンヘルスのいろいろなカタチ」として、北海道大学の堀内先生を中心に、宮崎大学の岡林先生、福岡県獣医師会の今村先生とともに、北海道大学におけるワンヘルスに関する教育研究や社会連携活動、宮崎県におけるワンヘルスの実践の拡がり、福岡県におけるワンヘルス教育や「ワンヘルスセンター」設立など、多岐にわたるワンヘルスの取組を具体的に解説いただきました。（写真13）

こうした取組みを通じて一般の皆様にもワンヘルスが身近なものとなり、その考え方や重要性についての理解を深めていただくことができたと考えています。

7 全60に渡る学術プログラムとポスターセッション

今回の大会では38のWVAセッションと22の年次大会相当プログラムが実施されました。また、オーラルとポスターを合わせて約350の一般演題が世界各国から寄せられました。（写真14）

こうした学術大会の常として複数のプログラムが同時並行的に進むことから、関心のあるプログラムをどうまわるのか、頭を悩ませた方も多かったのではないのでしょうか。今回のWVAセッションの特徴として、招待講演

＋一般演題という形をとったこと、また、「ワンヘルス」のコンセプトに基づく分野横断的なセッション構成により伝統的な区分とは異なる知識の集約を目指したことが挙げられます。

また、年次大会部分では、国内で関心が高いSFTSや、狂犬病、牛肉輸出、小動物のチーム獣医療、産業動物の群管理などの事案をテーマとしたシンポジウムが開催され多くの聴衆を集めました。これらは海外に向けた情報発信にもなったと考えており、今後、国際的な連携の強化などにも寄与することを願っております。

また、獣医学術賞の表彰は2日目（4月22日）にメイン会場のホールCで行われ、全11名が表彰を受けました。（詳細は本誌290ページ参照）

8 スペシャルセッション（イベントなど）

今大会で実施されたスペシャルセッションは実に11を数えました。

初日の午後に行われた、石田卓夫先生らによる「伴侶動物医療の未来」を皮切りに、愛玩動物看護師や、災害獣医療、WOAHによるGEDSI（ジェンダーギャップや障がい乗り越えた包摂性ある社会）を実践するための

取組、アジア地域における獣医学教育を考えるもの、日台韓の連携による狂犬病対策を議論するものなど、国際大会ならではの非常に幅広い内容をテーマに活発な議論が交わされました。

9 オフィシャルディナー

3日目となる4月23日の夜には、ホールB7でオフィシャルディナーが開催されました。会場には想定を超える600名以上の参加者が詰めかけ、来賓の皆様の挨拶と乾杯の後にはシゲキックス氏らによるブレイキンのパフォーマンス（写真）と、次回開催地であるメキシコにちなんだマリアッチ（メキシコの民族音楽）バンドがディナーに熱気を与えてくれました。挨拶をいただいた皆様は以下のとおりです。

- (1) 藏内勇夫大会長（写真15）
- (2) 麻生太郎自民党名誉総裁（自由民主党獣医師問題議員連盟会長）（写真16）
- (3) 林 芳正総務大臣（自由民主党ワンヘルス推進議員連盟会長）（写真17）
- (4) 松山政司 自由民主党参議院議員会長（写真18）
- (5) 小池百合子 東京都知事（写真19）
- (6) エマニュエル・スベラン 国際獣疫事務局（WOAH）事務局長：乾杯（写真20）
- (7) 服部誠太郎 福岡県知事（写真21）
- (8) 片山さつき 財務大臣（写真22）

オフィシャルディナーにおけるスピーチ

藏内勇夫大会長

Good evening, everyone.

First of all, I would like to express my sincere appreciation to former Prime Minister of Japan, Mr. Taro Aso, Minister for Internal affairs and Communications Mr. Yoshimasa Hayashi, Minister of Finance Ms. Satsuki Katayama, Chair of the Liberal Democratic Party Members' General Assembly in the House of Councillors Mr. Masaji Matsuyama, Governor of Tokyo Ms. Yuriko Koike Governor of Fukuoka Prefecture Mr. Seitaro Hattori, Honorary President of the Japan Medical Association Dr. Yoshitake Yokokura, President of the Japan Medical Association Dr. Kichiro Matsumoto, as well as many other distinguished guests, for honoring us with their presence despite their busy schedules.

My name is Isao Kurauchi, and I have the honor of serving as President of the Tokyo Congress. I have also recently assumed the role of President of the World Veterinary Association.

As we approach the final day of the congress, we can

look back on what has been a truly meaningful gathering.

With the participation of approximately 6,000 people from 70 countries and regions, we have had very active and fruitful discussions.

I am confident that the ideas and insights shared here will make a significant contribution to the future development of veterinary medicine.

Last week, I had the honor of briefing Their Majesties the Emperor and Empress, as well as Her Imperial Highness Princess Aiko, on the promotion of One Health.

On that occasion, I was asked what inspired me to devote myself to One Health.

My answer lies in the philosophy of Albert Schweitzer — reverence for all living things.

This philosophy was introduced to me by Ms. Kazuko Aso, the mother of former Prime Minister Taro Aso, who is with us today.

I would also like to take this opportunity to express my deep appreciation to Mr. Aso for his longstanding support of the Japan Veterinary Medical Association.

I would further like to extend my sincere gratitude to the distinguished members of the National Diet who have supported the promotion of One Health.

Minister Hayashi kindly facilitated the issuance of stamps for the World Veterinary Association Congress, which have been very well received.

Minister Katayama has compiled the 2026 national budget, which includes measures to promote One Health.

Chair Matsuyama raised the importance of One Health during a representative question session in the House of Councillors, drawing a positive response from the Prime Minister Sanae Takaichi regarding its promotion.

Guided by this principle, and with the support of many of you here today, I have been working to promote One Health.

My efforts began in my home prefecture of Fukuoka, and I now hope to expand these efforts across Japan and further to the world.

At this point, I would like to introduce Governor Seitaro Hattori of Fukuoka Prefecture, with whom I have been working closely to advance One Health initiatives, together with the Fukuoka Prefectural



写真 15 藏内勇夫大会長



写真 16 麻生太郎自民党名誉総裁
(自由民主党獣医師問題議員連盟会長)



写真 17 林 芳正総務大臣
(自由民主党ワンヘルス推進議員連盟会長)



写真 18 松山政司 自由民主党参議院議員会長



写真 19 小池百合子 東京都知事



写真 20 エマニュエル・スベラン 国際獣疫事務局
(WOAH) 事務局長：乾杯



写真 21 服部誠太郎 福岡県知事



写真 22 片山さつき 財務大臣

Assembly.

May I ask Governor Hattori and the members concerned to please stand.

I hope that during this dinner, you will take the opportunity to enjoy conversations and deepen your connections with Governor Hattori and with many other distinguished guests.

We have also prepared a special program, including a performance of breaking dance, for your enjoyment.

Now, please enjoy this evening, and I hope you will have a wonderful and fruitful time as we look ahead to tomorrow's finale.

Thank you very much.

皆様、こんばんは。

本日はご多用の中、麻生太郎元内閣総理大臣、林 芳正総務大臣、片山さつき財務大臣、松山政司参議院議員会長、小池百合子東京都知事、服部誠太郎福岡県知事、そして日本医師会の横倉義武名誉会長、松本吉郎会長をはじめ、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

東京大会の大会長を務めており、またこの度、世界獣医師会長に就任しました藏内勇夫です。

この大会も、いよいよ残すところあと1日となりました。

世界70以上の国・地域から5,000名を超える皆様にご参加いただき、これまで大変活発で有意義な議論が交わされてまいりました。

ここでの議論は、今後の獣医療の発展に大きく寄与するものと確信しております。

先週、私は天皇皇后両陛下、そして愛子内親王殿下に、ワンヘルスの推進について御進講申し上げました。

その際、「なぜワンヘルスに取り組んでいるのか」とのお尋ねをいただきました。

私の原点は、シュヴァイツァーが説いた「生きているものすべてを敬い、大切にする」という理念にあります。

この理念を私に授けてくださったのが、本日も臨席の麻生太郎元内閣総理大臣のお母様である麻生和子様です。また、麻生太郎先生には、長年にわたり日本獣医師会の活動に多大なるご支援を賜っております。

さらに本日は、ワンヘルスの推進にあたりご尽力いただいている国会議員の先生方にも、心より感謝申し上げます。

林大臣には、世界獣医師会大会の記念切手を発行いただき、大変好評をいただいております。

片山大臣には、ワンヘルス推進を盛り込んだ令和8年度予算を取りまとめていただきました。

また、松山参議院議員会長には、参議院の代表質問においてワンヘルス推進を取り上げていただき、高市早苗総理から前向きなご答弁を引き出していただきました。

こうした理念と、多くの皆様からのご支援を礎として、私はワンヘルスの推進に取り組んでまいりました。その取組は、まず地元福岡から始まりました。

そして今、その取組を日本、さらには世界へと広げていきたいと考えております。

こうした取組を共に進めているのが、福岡県の服部知事と福岡県議会であります。ここでご紹介させていただきます。どうぞご起立ください。

ぜひ本日は、このディナーのひとつきに、服部知事をはじめ多くの皆様と親しく交流を深めていただければ幸いです。

また、本日のプログラムでは、ブレイキン（ダンス）による演技なども予定しております。

それでは、本日はどうぞごゆっくりお楽しみいただき、明日のフィナーレに向けて、さらに実り多い時間となることを願っております。

10 企業展示

ホールEでは62もの企業等による展示がおこなわれました。国内外の企業による展示の中には、最先端の商品のプロモーションはもちろん、機器のデモンストレーションや日本の各大学におけるワンヘルスの取組の紹介などが行われました。各社の特徴を前面に押し出した特徴的できらびやかなブースは大会に花を添えるとともに、全体を見ることで今現在の世界の獣医療の潮流も感じさせてくれるものでした。

11 ホスピタリティプログラム

今回の大会では、東京観光財団の協力をいただき多くのホスピタリティプログラムが開催されました。東京都内の観光や、禅などの日本文化体験を楽しんでいただいた方も多いかと思います。（写真23）

また、少し遠出をしたい方を対象として、富士山の裾野までの1日ツアーも2日目と3日目に開催しました。今年の桜は昨年よりも早かったことから、そのツアーでは桜も見えていただけるのではという思惑は外れてしまいましたが、多くの方から好評をいただきほっとしているところです。（写真24）

12 閉会式及びWVAワンヘルス東京宣言

閉会式ではジョン・デヨンWVA会長（2024～2026）の挨拶に引き続き、ラファエルWVA元会長からの歴史的資料のデジタル化の取組紹介と、新WVA会長となった藏内会長への目録授与（写真25）が行われました。

これに引き続き、閉会式のハイライトとして日本獣医



写真 23 ホスピタリティプログラムで観光を楽しむ参加者



写真 24 ホスピタリティプログラムで訪問した
富士山世界遺産センター



写真 25 閉会式での歴史的資料目録授与



写真 26 閉会式で WVA ワンヘルス東京宣言を発表する
栗本副会長



写真 27 閉会式で藏内会長から大会旗を受け取る
グスタボ・モレノ メキシコ獣医師会会長



写真 28 閉会式で挨拶する藏内会長

師会の栗本まさ子副会長から WVA ワンヘルス東京宣言が発表されました。(本誌 216 ページ参照)(写真 26)

その後、メキシコ獣医師会のグスタボ・モレノ会長から来年 4 月にメキシコのメリダで開催予定の WVAC2027 のプロモーションがあり、藏内会長からグスタボ会長に大会旗が手渡されました。(写真 27)

そして藏内勇夫大会長から閉会の言葉があり、栗本副会長による閉会式終了宣言により、4 日間に渡った世界獣医師会大会 2026 は無事に幕を下ろしました。(写真 28)

閉会式における主催者謝辞

藏内勇夫大会長

Distinguished guests, ladies and gentlemen,
My name is Isao Kurauchi, and I have had the honor
of serving as President of this Congress.

It is my great pleasure to offer a few closing remarks.
With the participation of approximately 6,000 veteri-
narians, researchers, and professionals from 70

countries and regions, I am truly delighted that we have been able to bring the 41st World Veterinary Association Congress to a successful conclusion.

I would like to express my sincere gratitude to all those who contributed to the organization of this congress, and also to extend my heartfelt appreciation to all participants.

Over the past four days, under the theme “One Health for a Better Tomorrow: Veterinary Medicine Holds the Key,” we have witnessed active and fruitful discussions among experts from various fields.

As one of the key outcomes of this congress, the “WVA One Health Tokyo Declaration” was adopted, clearly demonstrating a shared international commitment to advancing One Health.

The knowledge and experience shared at this congress will make a significant contribution to the future development of veterinary medicine, and will also serve as an important guide for safeguarding the health of people, animals, and the environment.

I sincerely hope that the connections and trust built during this congress will continue to grow and lead to concrete actions across the world.

I have also recently assumed the role of President of the World Veterinary Association. I fully recognize the responsibility this entails, and I am committed to working together with all of you to further advance One Health and the development of veterinary medicine.

Finally, the next World Veterinary Association Congress will be held in Mexico. I very much look forward to seeing you again there. Until then, I wish you all the very best, and I hope to see you in Mexico.

皆様、本大会の大会長を務めました藏内勇夫でございます。閉会にあたり、ご挨拶申し上げます。

世界 70 以上の国・地域から 5,000 名を超える獣医師、研究者、関係者の皆様にご参加いただき、「第 41 回世界獣医師会大会」をこのように盛会のうちに終えることができますことを、心から嬉しく思っております。

本大会の開催にあたりご尽力いただいたすべての関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、ご参加いただきました皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

この 4 日間、「ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来」をテーマに、各分野の専門家の皆様による活発で実り多い議論が行われました。



写真 29 WVA 総会で世界獣医師会会長に就任した藏内会長（左からジョン・デヨン前会長、藏内勇夫新会長）

また、本大会の成果として「WVA ワンヘルス東京宣言」が採択され、ワンヘルスの実現に向けた国際的な意思が明確に示されたところです。

本大会で共有された知見と経験は、今後の獣医療の発展に大きく寄与するものであり、同時に、人と動物、そして環境の健全性を守るための新たな指針となるものと確信しております。

本大会を通じて築かれたつながりと信頼関係が、今後も継続し、世界各地において具体的な取り組みとして実を結んでいくことを心より期待しております。

そして、このたび私は世界獣医師会会長に就任いたしました。今後は、その責任の重さをしっかりと受け止め、皆様とともに、ワンヘルスの推進と獣医療のさらなる発展に全力で取り組んでまいります。

最後に、次回の世界獣医師会大会はメキシコで開催されます。皆様と再びお会いできることを楽しみにしております。それでは、メキシコでまたお会いしましょう。

13 藏内勇夫日本獣医師会会長の世界獣医師会会長就任

本大会の初日（4 月 21 日）には世界獣医師会大会の総会が開催され、日本獣医師会の藏内勇夫会長が正式に世界獣医師会会長に就任しました。（写真 29）

藏内会長は 2 年前の次期会長選挙に勝利して世界獣医師会次期会長を 2 年務めており、今回、満を持しての世界獣医師会会長就任となります。世界獣医師会会長の任期は 2 年、また、任期終了後は前 WVA 会長として役員をさらに 2 年務めます。

藏内会長は、さっそく本年 5 月に開催される国際獣疫事務局総会に世界獣医師会会長として参加するなど、今後 2 年間、多くの国際会議に世界獣医師会会長として出席するとともに、世界の獣医師の地位向上、獣医療の発展を牽引していくこととなります。

The WVA One Health Tokyo Declaration 2026

41st World Veterinary Association Congress (WVAC Tokyo)

Humans, animals, and the environment are bound together in a relationship of profound interdependence within the shared ecosystem of our planet, forming an inseparable whole. The philosophy of One Health, which recognizes the health of people, animals, and the environment as intrinsically interconnected, constitutes a foundational principle for addressing the complex and interwoven challenges confronting the global community today.

The emergence and re-emergence of zoonotic diseases, the accelerating spread of antimicrobial resistance (AMR), health crises arising from climate change and natural disasters, and challenges to food security transcend national borders and exert mutual influence. Effectively responding to these challenges requires sustained collaboration among human medicine, veterinary medicine, environmental sciences, and their respective academic disciplines, together with coordinated engagement by governmental authorities and civil society, guided by robust scientific evidence.

Safeguarding the health and integrity of humans, animals, and the environment is a shared responsibility that extends beyond national and regional boundaries. Building upon the spirit and achievements of the Fukuoka Declaration of 2016 and the Asia One Health Fukuoka Declaration of 2022, we reaffirm in Tokyo our collective commitment to the principles set forth below. Anchored in partnership with local communities and advanced through dialogue and cooperation in harmony with the international community, we hereby declare our shared responsibility to bequeath a sustainable, resilient, and peaceful future to succeeding generations, and proclaim this commitment as the One Health Tokyo Declaration 2026.

Fundamental Principles

1. To recognize the health of humans, animals, and the environment as inseparable and mutually reinforcing, and to address them through integrated approaches, with particular emphasis on regional policies and their effective implementation.
2. To advance cross-sectoral and interdisciplinary collaboration among physicians, veterinarians, academic and research institutions, governmental authorities, and civil society, while strengthening international cooperation.
3. To reinforce information sharing and international collaboration in the prevention and control of zoonotic diseases and antimicrobial resistance (AMR), and to promote the responsible use of antimicrobials, the strengthening of surveillance systems, and the advancement of research and innovation.
4. To embed the One Health approach within education and human resource development, thereby cultivating the next generation of professionals equipped to lead and sustain these efforts.
5. To place strong emphasis on the conservation of biodiversity and the integrity of ecosystems, contributing to the establishment of sustainable and resilient societal foundations.
6. In responding to urgent challenges in the fields of public health, animal health, and environmental protection, to act in close coordination with relevant stakeholders, ensuring timely, proportionate, and science-based responses.